

育成モノづくり人材

Vol. 54

奈良県立王寺工業高校

奈良県立王寺工業高校は、奈良県で唯一の「工業」が名称に残っている高校だ。2000年代から奈良県で進んできた統廃合の波に

も飲まれず、単独で生き残ってきた。その強さの源泉の一つが、生徒の礼儀正しさと勤勉さにある。16年度は、17年連続就職率100%を達成。卒業生の多くは、トヨタ自動車などに



加藤校長

【DATA】▷校長=加藤秀夫氏▷所在地=奈良県王寺町▷学科構成=機械工学科、電気工学科、情報電子工学科▷総定員=650人▷主要設備=CNC旋盤、フライス盤、放電加工機、電気炉、CADシステム、各種計測器など▷主な進路=トヨタ自動車、ホンダ、マツダ、ダイハツ、大阪教育大、大阪工業大など

ようになった。あいさつのほかに校内の清掃に力を入れている。溶接や機械加工などの実習で機械を使った際には治具

残った「工業」 礼節と勤勉

くをトヨタ自動車などにお金をかけたのだから、自分たちもこれを機に変わらなければ」といって機運が、体育を重視する校風にシフト。最近では、生徒が校内で学校への訪問客と会うと、いったん立ち止まって元気よくあいさつする様子が見受けられる。放課後には数時間

この運動がいつしか所定の場所へ必ず戻す全校へと広まり、あいさつや整理整頓、学業に高い工場と同様の取組を心がけている。課外活動では、資格試験の勉強に力を入れている。放課後には数時間

的に勉強する。多くの生徒の進路が就職となるため「履歴書の保有資格の箇所を空欄にしないことが重要」と加藤校長は話す。クラブ活動の加入率は約85%と他校と比較して高い。ボクシング

部が全国トップの選手を抱えており、県外から学生が集まる。また文化系クラブも活動しているという意識付けに期待をかける。加藤校長は期待をかける。加藤校長は期待をかける。



2月7日に開いた校内課題研究発表会

門3位、08年には「高効率風車の研究」によりエネルギー部門2位に輝いている。同校では毎年2月、3年生による校内課題研究発表会を実施しており、ISEFでの実績は今も息づく。16年度は30グループの中から予選を勝ち抜いた6グループが発表会に出場。全方向で稼働が可能なビークルや、モーターで動くメリーゴ